



しば た いさお
柴田 功
「普喜農園」代表

15
-東部-

応募のきっかけは？

着任する2年前から岩国市にある祖母宅へ農作業の手伝いに来ていました。自己流での農業に限界を感じ、2018年の春、2泊3日の「やまぐち就農ゆめツアー」に参加。その時に、各市町がPRに来られていましたが、たまたまその日が大雪で、お目当ての岩国市の参加がありません。たまたま田布施町のブースへ行き、協力隊を知りました。

着任してみて、想像と違っていたことはありましたか？

店は遠いのですが、信号や渋滞がないことから、意外と早く着くことができます。都会では近くに行くのにも、車では時間がかかっていましたので、運転のストレスがなくなりました。



隊員時代：農作業



隊員時代の思い出を教えてください

着任1年目に田布施町の「イチジク栽培大学」で学び、圃場を1畝借りて、イチジクの栽培を開始しました。諸事情で急遽6畝が加わって、1年目は豊作となり、収穫や出荷の楽しさ、大変さを知りました。2年目は長雨や寒波で不作となり、大自然の強大さと農業の厳しさを知ることもできました。

露地栽培で実ったイチジクはとても甘く、「こんなにも美味しいのか」と持っていたイチジクのイメージが一新され、この感動を少しでも多くの人に味わってもらうためにも、露地栽培にこだわってイチジクを生産していきたいと思っています。



活動中のキーパーソンを挙げるとしたら？

受入先の農事組合法人や地域の皆さんです。今でも「何でも使って良いよ。ハウスでも機械でも」と言ってもらえます。

また、観光協会の方にもお世話になり、本当に出会えて良かったと思っています。



イチジク



隊員時代：イチジク栽培

現在、そしてこれからについて

家族がいますから、1週間フルに働いています。農業以外にも田布施地域交流館で週4日、その他にもアルバイトをしています。農業は、時期をずらしてイチジクのほか、米やサツマイモなども栽培しています。冬の農閑期は、任期中に伐木の資格を取りましたので、間伐材でチップ作りをするなど年間を通して、仕事を組み合わせてやっています。間伐材チップ置場はカブトムシの産卵場所になるため、たくさんの幼虫が羽化します。その幼虫は幼児教育に良いかなと思い、町内の保育園や幼稚園に配っています。

また、加工場に乾燥機を導入し、規格外の野菜や果物に付加価値を付けるべくドライ化を始めました。更なる商品化を目指し、フードロスの削減にも貢献していきたいと思っています。



ドライ化商品▲

協力隊を目指す人や後輩に伝えたいこと

行政としっかりとした話し合いができる環境を自分から作っていくことが大切です。

しば た いさお
柴田 功さん

▶ 協力隊として

| 着任地 | 田布施町
| 活動期間 | 2018年10月～2021年9月
| 活動内容 | 農業

▶ 現在の仕事

「普喜農園」代表



柴田さんのあゆみ

- 2017. 祖母宅の農作業の手伝い開始
- 2018. 「やまぐち就農ゆめツアー」へ参加
- 2018.10 協力隊着任
- 2019.04 イチジク栽培開始
- 2021.08 「普喜農園」開業
- 2021.09 協力隊卒業
- 2021.12 加工場内に乾燥機導入
- 2022.03 ドライフルーツ商品化
- 2022.04 家族の移住